種彦諸國物語

大和の巻

殘編上

香蝶樓画

榮久文庫

へ13
3030
2

邯鄲諸國物語

大和の巻

残編

上冊

天保戊戌孟春發行

柳亭種彦作

歌川國貞画

芳町親仁橋角榮久堂山本平吉上梓

大和やぐらの図

高市の城下わらべ踊りの指南も
小笹忍び

仙女香
義孝香
右ゑふ
こしらへ
雅ゝ
なり
時用の移き
春
新作
早
時
坂本氏

種彦作 國貞画

荘子法國志

天保九年
戊戌發春

歌川國貞画

大和の巻
殘編下

榮久文庫

大和の巻　殘編　下

耶鄲諸國物語

種彦作

國貞画

榮久堂板

邯鄲諸國物語

初編より八編迄柳亭種彦作
九編十編新刻　一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃

十編　新刻
一陽齋豊國画

仙女香七變化粧

十返舎後一九作
二編
一陽齋豊國画

朧月猫のさうし

山東庵京山作
六編　七編
一勇齋國芳画

竹女一代記

三亀蘭齋作
四編
哥川貞秀画

春の花の草紙

山東庵京山作
初編二編　新刻
一陽齋豊國画

隅田川月次見

式亭小三馬作
一陽齋豊國画

美艶仙女香　一包四十銭　東京橋通り伝馬町二丁目　坂本氏製
黒油美玄香
榮久堂　江戸芳町親人稿屋　山本平吉版

種彦諸国物語

播磨の巻前編上

彦一

彦一

榮久文庫

我子よ我身を賣まの寶娘
諸うくひ狂ツホウ浮世に送りて苦海の
勸め客よ合せる胡弓の弦戯い元より濁れ
者ふ中えさ室の津の遊廓
命をすり切と投出す忠義娘

父が仇撰の和泉さまハツチリ賣ふさ
主人の眼茶杓の油ひと筋ためるかす
ぜい清さ二の間ひ水浅黄
兄の那道ふ濁らざる貞節娘
蒲公英繪のホンと違ふ乳母が仲人の
所名を取戻る君の恵よ元の朝ふ細りそ
高砂の千歳茶

天保子の春

種亮

歌川國貞画 播磨の巻 前編上冊

山本屋板

附り繪の樟二ヶ石実拙んでぢんぢと
のぐらしさ昔の小歌

郭諸國物語

并二奴二笠ヶ振出ヒ方石丹前
風呂の今極楽

丁度二人裏女氣質氏無も奈無の玉男舞の
小菊ヶ長襲其積ヶ田調めるひる註文同錦石の如

播州室の津
空蟬屋の遊君
花妖莉
禾九

浮嶋の扈從
篠野灌三

室の津の阿曽比
奴三笠後ゐ逸之進の後妻　阿佐家

浮島の家長
浅香逸之進
宗味

播州赤穂郡白旗山の麓に古城跡今ゝ存往昔浦嶋
の者當地に住しゝの國羊城司ごろしが此浦嶋の家にて一條の話

相撲
琢

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文字抄　首書繪抄

源氏五十四帖　枠彩色　小彩繪

御誂染逢山鹿子　六編補

緣結妹背双六

但平日故撰　たゝ〻入　はお入

東都錦繪所　江戸十軒町かやち橋角　山本平吉梓

稚美詩國物語

天保
庚子春
發行

歌川國貞画

柳亭種彦作

歌川國貞画

邯鄲國物語

ちりまの巻 前編 下

榮久堂上梓

礎石村
東 稲富村
西 伊津村

わら

四
金銀出入帳
入船帳

邯鄲諸國物語

初編より編追来 柳亭種彦作
九編十編新刻 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃 山東庵京山作 十編 新刻 一陽齋豊國画

仙女香七變化粧 十返舎後一九作 二編 一陽齋豊國画

朧月猫のさうし 山東庵京山作 六編 七編 一勇齋國芳画

竹女一代記 玉蘭齋作 四編 哥川貞秀画

雲の扇しの紙 山東庵京山作 初編二編 新刻 一陽齋豊國画

隅田川月姿見 式亭小三馬 一陽齋豊国画

美艶仙女香 一包四十銭 芳町三丁目 坂本氏製

黒油美女香 芳町三丁目 坂本氏製

榮久堂 江戸芳町親方稿本 山本平吉

國貞画 種彦作

美艶仙女香
黒油美女香
坂本氏製

浄書 谷金川

雅亮法國物語

播磨の巻中編上

天保辛丑
孟春發販

歌川國貞

東京大学文庫

邯鄲諸國物語

種彦作
國貞画

重帷子曰九ふこツ引
ふまんの浄紋りとミいろ〻菊

播磨の巻
中編上

芳町親仁橋
榮久堂梓

邯鄲諸國物語中編

錦の帷子の名ハ昔の曲子ふゆえ〻それどゝづれの時代いづまの國の人
るるを知らゞ門左衛つゞ著し〻浄瑠璃重帷子いかの古き人
名を假借て雲州の街説を作りしるるり是ハ髣髴〻る話因
州丹州るも又ありそれ等の事を綴ア〻一冊子の三ア〻眼ハ表れる
標題ハ下編の巻首ハ録さそのるるハ記る塩江川波鼓いかるド
門左衛つ作るて因幡の苍談とおのそるさそのの諸国物語ハ原
来の空説るるバ私ハ播磨の事とる〻おさるゞ格こハ茶道れ
伯受の一段のそハ重帷子をそその伝ゆておさるゞ自害ハ波鼓を
よゆとゞところとゞそその他ハ悉新ハ趣向をまうけ〻ゆて影だり
も實の事ハあらゞ

天保辛丑正月

柳亭種彦記

新峯相記ハ曰

昔より海の内
佐用郡ふそ
んいとやさしき
おんなの女あり
ある年の冬
雪いとく
ふつのり
きちふ
ゆき
ふる
そ
法師
ありけるを
ひとりをやど
れふつれづれ春ハ
ふりゆくまゝきえん
それまちていでさせ給へと

古書の峯相記とハ別本
ちく延宝天和年間の
編なるべし

柳亭きうさ
此冊子の
説の
是非ハ
さんとくく
春哉村と
ふる地ハ
今
佐用郡ふ
るゝ在

心よくこゝめ
雑子の音づれ
深雪ゆも雑子ハ
ふりくて年かへりむ月十四日のあさ
ちぐさ
あとをそきくふるの法師ハ
時頼禅門最明寺殿ゆ
あそ
あてをそ
春哉の里と
ふる名づけ
おの徒ゆ
此里の雑子ハ
今ふいるまで雪の
中ゆもれるの声きと
ふり

東都錦繪所

江戸ゝ町おやぢ橋角

山本平吉梓

永花百人一首文字抄

首書繪抄

源氏五十四帖

枕彩色小綿絵

左源氏物語五十四帖枕彩色小綿絵

御誂染逢山鹿子

六編揃

但六十四枚揃　たゝ〳〵入　はゝ〳〵入

縁結妹脊双六

國貞画　種彦作

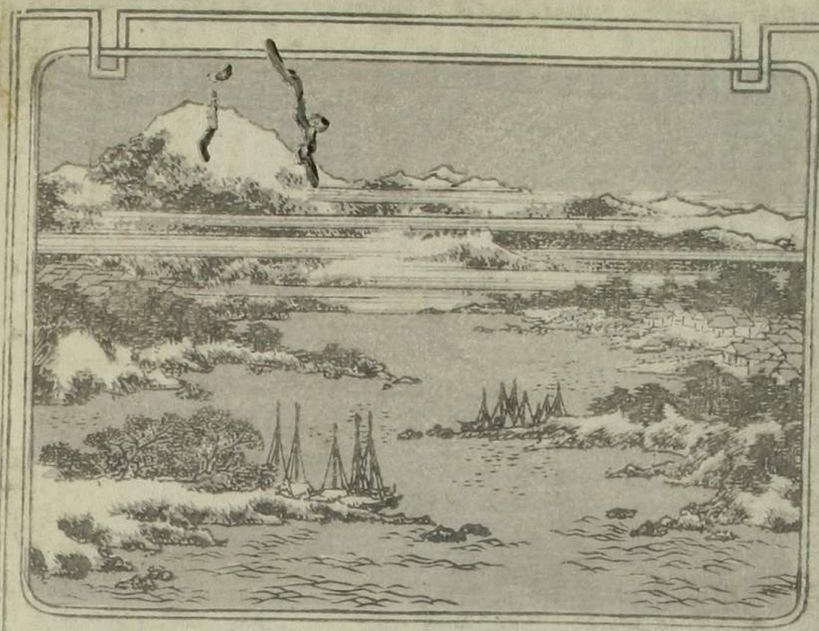
奉書　三丁目　坂本氏

稚児法図抜語

香蝶楼畫

博文堂蔵書

中編下



郡鄰諸國物語

播磨の巻 中編下

柳亭種彦作

歌川國貞画

芳町 橘角 山本屋平吉板

邯鄲諸國物語

初編以編追出 柳亭種彦作
九編十編新刻 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃 山東庵京山作 十編 新刻 一陽齋豊國画

仙女香七變化粧 十返舍後一九作 二編 一陽齋豊國画

朧月猫の子 山東庵京山作 六編 七編 一勇齋國芳画

竹女一代記 玉蘭齋作 四編 哥川貞秀画

雲の曙の竹紙 山東庵京山作 初編二編 新刻 一陽齋豊國画

隅田川月姿見 式亭小三馬作 二編 一陽齋豊國画

美艶仙女香 一包四文銭 京橋南傳馬町二丁目 坂本氏製
黒油美玄香

榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版

稚児淵國初語

天保辛丑孟春
新刻

香蝶楼画

播磨口
三編

諸國物語播磨之巻下編上冊

是迄等の趣ハ播州の事ともなるハ中編の序にも如く悉私なり

引用書目録

熊谷女編笠五冊 宝永二年印本 錦文流著

堀川波鼓 近松門左エ門作 浄瑠璃 堀江川波の鼓と標題あるハ本ハ同ものなれども異同あり 以上三種因州の巷談

乱萩二本鎗 六冊 自一至三 權三の話 姓名ハ異なり

鎗權三重帷子 門左エ門作 浄瑠璃

殘花之淀の鯉口 雛形屋板 繪草紙 作者不知

高麗橋踊念佛 浪花某座歌舞妓狂言 根本以上四種雲州の街説

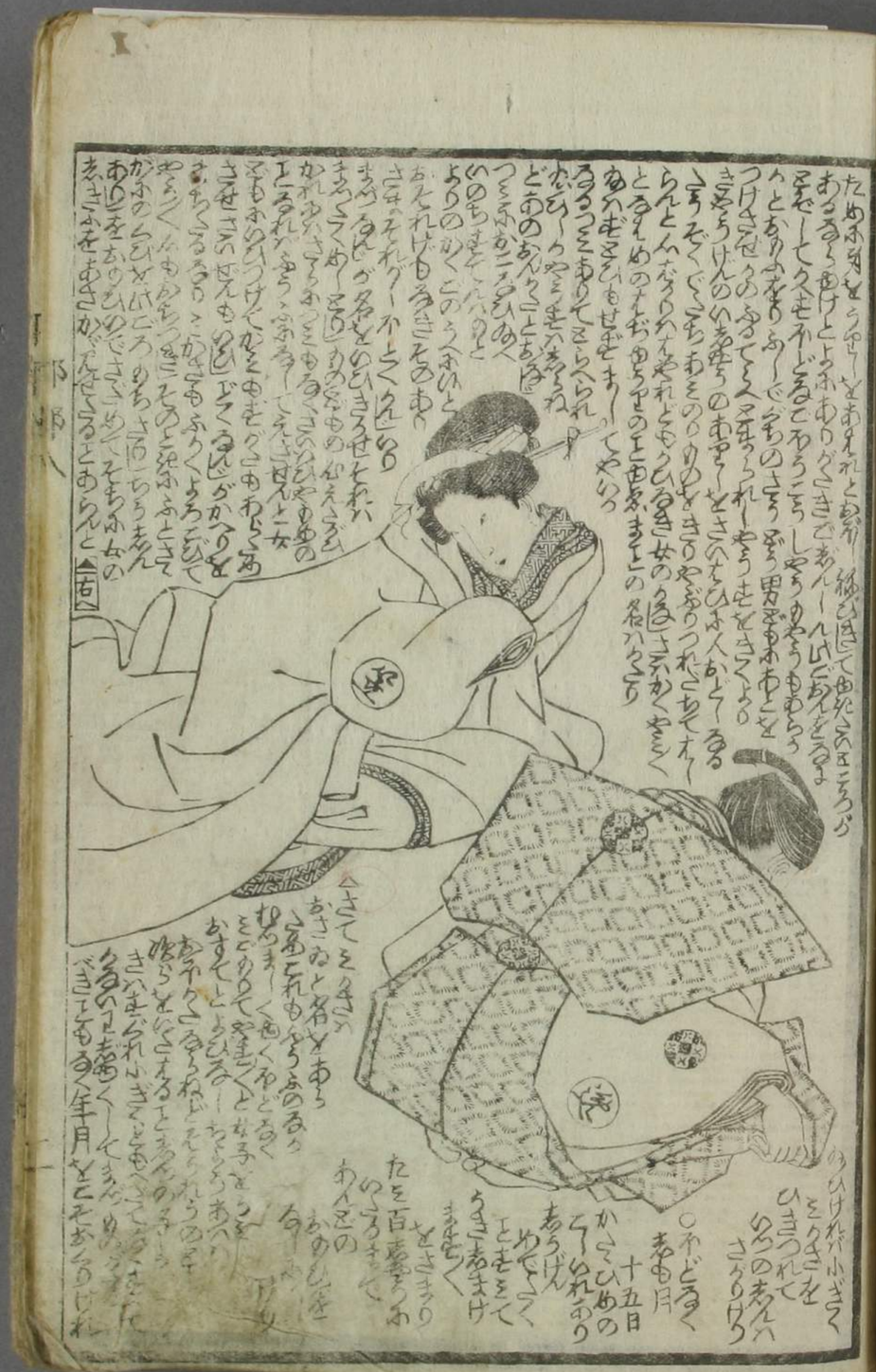
天保辛丑正月

柳亭種彦記

諸國物語播磨の巻下編上

天保十二辛丑

八編



中編の續き

中へあの女ちうまいすの一画の此一段の為めにてんせうされがあの一画いそのあるかゆゑ

○あそのさま　さとのこと　ゆいきこけいせんとりさも　女のさぞでいるのとのさま　男でもさもせてでぐきのちゑたち　ゆゑつ兒ぐーさ女をつまるをもと　いふいれさもうやはいけたるを　それわかとらぬ女いれどもそんへ　さへもうれぬやうわるもうきよ　それさうつ兒をえをくせのきつよ　ミかさえるをとやっ今さてふ　あくさまりかときめきかえ　らけとりつうもきとこうきむ　さーあくさんぞうくのでかぶりそ　きされかものつのあれかわちふ　とあれがとのきとーそーさる　らふさまえ人江の物ふうーく　あさういるんそうさく　きんでイや　ぎきとうきりあぐれか人江の物きげん　よくいのやくさうりとあしふ　あいあのまことめでうりけれ　あるあんのうこいふ三九分きあん　よくせきてあるもうふむしひていち　れいるーくれがヨくうふそでより白　むくのいろるをーいきやきぬとこうう　ぎきうやぎりとへひーらさうへと　いとをあるりいとをへらーせ

たぬきをうゑーとあれとあり　紙と思てゆえんのさこそ　あるるるうけとよふありがさきごあんーんひとあいをるよ　ぞーしてくそれどるこゆうこうしやうゆやうもあらう　ハとありふをりふーぐ　ものさうぞう男ぞもふあとを　つけさせるのふるてくえるをうーれーやうさをきくよう　きそうけんのいあをうのあやーをさのたひふんあとーるる　うそぐーくうちあをのりりのをきりやぶりつれこあてれ　らんとんなりかんそれどもうこるきく女のくるさかくさく　あれぎをひもせぎちーてやいう　るるうこもりてをらへられ　かひーうやをかきうれ　どあのあんくことちほ　つくふかこうふひめく　いのちまそこんのと　よりのかくこのうふいと　おとれけもるきそのあ　さはのそれーかとくんこる　まんるをどのるをのひきろせとれハ　まるくうめーこうかのものかえるゑ　かれかやさくあつこもるくさのひやものの　エこるれがゆうふるーてえさせんと女　そもあのいつけくんをゆきぐこゆわらく為　させさのせんものほ　どくるんがかりを　ちくるるうこかさもふくよろこて　やらくんもかちうきこそのと絶ふとさて　かふのらひをけころのちさほこちうまん　あほをおうひのぐさかめくそちゆ女の　ゑさふをあさかでなるとあらんと　古

○ねどろく　ゑも月　十五日　かくひめの　てーれあり　ゑうげん　やくさく　とをきて　うきゑまけ　まをちく　とさまり　たを百ゑろふ　のうるをて　あイこの　あのひを　なーかの

のひけれがふざく　をくさを　ひきつれて　ゑつのゑんハ　さくりけろ

△さてををさハ　あさぬと名をあゑ　ゑあこれもうちふのあろ　なゆまーくもくゆとゑく　をこのりてやをくとなを　おすとーとうひるー　ちくろうあハ　あれくさゑうれがたそうれうのそ　ゆうをにさるとゑあのゑう　きハまぐれいきくとゑくてゑ　ゑのこ毛をくーてまんゆうを　ぐきてもゑ年月をとそあるりしれ

上ホ摸しるい
鱗形屋版
淀の鯉口ホ
アンンンる
圖ろう
七十年
余りの
程ホ
草冊子の
西風
いらく
変り
ろうを
えあホ
べし

恥
あんし
視を
の秘く
間乃
顔
其角

天保辛丑孟春發行

邯鄲諸國物語播磨の巻

柳亭種彦作
歌川國貞画

前編中編後編十二冊

播磨の巻ごろ[illegible]様（作者謹で告ぐ）[illegible]

子ひとつの續物語と異なりて一箇國あて一説話のごとく首尾分明の續物なれども先々賣出しゐるまゝ淨讀ゐされ[illegible]

語とれば欲[illegible]

ちく大和の巻[illegible]楓屋の女房おこの[illegible]彼[illegible]知ることもあのづから明

あり刀鍛冶大宗が父母[illegible]その昔非道のふるまひせしとの既に出羽の巻に

出大和の巻ごろは播磨の巻をのべ續びとこれらの事の多くは先

板もの[illegible]の程を願ひて目録を左りに記す

近江の巻

前帙 八冊 合本 二袋
後帙 合本 二袋

附 出羽の巻

[illegible]のこの巻のうちへこもまり

大和の巻

前帙 十二冊 合本
後帙 合本
残編 三袋

以上先年出板

不絶製本たくさんおきます　板元 芳町裏ぎ橋角　山本屋平吉

雅彦法國物語

搭磨の巻

下編下

歌川國貞畫

郡鄭 諸國物かたり

種彦作
國貞画

播磨の巻
下編下冊

芳町 山本屋 板

柳亭隨筆
用捨箱
三冊近刻

雪
宗

梅
柳
松

さァぞんこそのおつれなされトヱとそつけぐろ
宗味の工そ小ぎくをさきへよろこびするうち
母とおふとがむざんのさいごめもくれんきそぐお
ふろもこちらへ気がおちつくなるぞ宗味ハ
又もこゝろあらためげにだん飛ごのか
おびおあやまりかさねもくるる
かんねんづくさァどつくト
まてかくされそゆき
おのれのくびてひろうけ
るよくぞんこどつれ
どうせいくるさ
もうよかろう
そろよとの京
ひらそとうち
あめりのよも
きく工もなきこの
さるとろけじろべ〜

かくてのちでん三ハこゝろきさをせ
つまとなしゆとよりかゝまおぶち
なれバそのみなのゝとむつましく
小ぎくもろ共ての祥がひのぞく大江の
助のそくめとなりめでたくさかえるく
そのみをやとしやがてくと女子をそうを
うちぎをこそ中もご男子出生そうきざしの
きつきらくのをめをあげ
えいへいをさうとひてなまの玉
のよくさうえ
けりとぞ

柳亭種彦作
歌川國貞画
浄書 谷金川

美艶仙女香
御黒油美玉香
おしろいの事
よく精製
仕るなり
御用の程
おたのみ
南伝馬町三丁目
坂本氏

栄久堂梓行新書稗史目録

増補忠臣蔵 全六冊 晋米齋玉粒編 一陽齋前豊國画
繪本千年山 全拾冊 北尾重政画
繪本武者鑑 全四冊 十返舎一九作 香蝶楼國貞画
花軍春錦繪 前篇六冊 後篇四冊 十返舎一九作 香蝶楼國貞画
昔舊在多土佐 全四冊 宝田千町選 歌川國芳画

地本錦繪問屋 江戸よし町親仁橋角 山本平吉版

[illegible]